

ワイヤークリップ

- 重荷重のかかる場合は鍛造製をご使用下さい。
- クロとデンキメッキがあります。



クロ



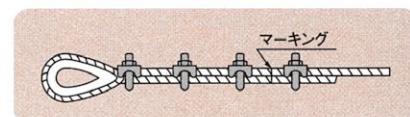
デンキメッキ

クロ	デンキメッキ	呼びワイヤ径 (mm)	Uボルトのねじ径 (W)	ナットの二面巾 (mm)	締付トルク (N・m)	取付個数	取付間隔 (cm)	1束数量 (個)	計算重量 (kg)
	●	TM3	3/16	8	2.3	3	5	100	0.02
	●	TM5	1/4	10	4.4	3	5	100	0.03
●	●	TM6	5/16	14	5	3	5	50	0.06
●	●	TM8	5/16	14	12.5	4	5	50	0.07
●	●	TM9	3/8	17	17.4	4	6	50	0.11
●	●	TM12	3/8	17	17.4	4	8	50	0.13
●	●	TM16	1/2	21	45	4	10	20	0.26
●	●	TM18	1/2	21	45	5	12	20	0.31
●		TM19	1/2	21	45	5	12	20	0.33
●		TM20	5/8	26	96	5	13	10	0.52
●		TM22	5/8	26	96	5	13	10	0.54
●		TM25	5/8	26	96	5	16	10	0.75

JIS 型ワイヤークリップの正しい止め方について



※下記の表及び説明は、あくまで参考で現在JIS専門委員会で検討中。



■ワイヤークリップ取付け基準(6×24、6×37 ワイヤロープ用)

ワイヤ径 (mm)	10	12	14	16	18	20	24	26	30	36	40	47.5
取付個数 (最小)	4	4	4	4	5	5	5	5	6	7	7	8
締付トルク (N・m)	16	24	37	52	67	82	119	137	188	261	299	397

- グリップ止の保持力は適正な方法で施された場合でロープの切断荷重の約80%です。
- グリップの間隔はロープ径の6倍以上としてください。
- ロープに引張荷重を掛けた後もう一度ナットの締付を行ってください。
- アイ部には原則としてシンプルを使用し、アイ部に近いグリップはできるだけシンプルに近づけてください。
- グリップの本体はロープの力のかかる側にしてください。
- グリップの締付けの順序は、端末のグリップより同一順序で3回以上に分けて順次締付てください。
- 動荷重のかかる場合、ビニール被覆ワイヤロープにはグリップを使用しないでください。
- マーキングを施し、使用中におけるスリップの有無を確認してください。